

科目名	総合日本語Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	20単位	時間数	300時間	担当者	河崎・河原田・檜崎		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	『テーマ別 中級から学ぶ日本語 三訂版』(研究社)を使用して、N2レベルの漢字・語彙・文法などを学習する。各課の読み物を読み、それについて日本語で意見交換をする。日本語能力試験のために読解の練習をして、読解の力をつける。並行してN2文法の教科書を使用し、日本語能力試験に対応できる文法力を養成する。 また、日本語能力試験の対策授業、模擬試験も随時実施する。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		日常身近に体験する出来事や社会的な話題について、感想を述べることができる。	
	○	○		○		異なる視点や考え方を持つ相手とも、興味・関心を持って情報や意見の交換ができる。	
テキスト・教材 参考図書	・松田浩志 亀田美保 著 『テーマ別中級から学ぶ日本語 三訂版』 研究社 2014年 ・遠藤ゆう子 著 遠藤由美子 監修 「日本語能力試験対策N2文法総まとめ」 三修社 2010年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~15	「中級から学ぶ日本語」第1課～第3課			教科書の該当範囲を読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	16~30	「中級から学ぶ日本語」第4課～第6課			教科書の該当範囲を読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	31~50	「中級から学ぶ日本語」第7課～第10課			教科書の該当範囲を読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	51~71	「日本語能力試験対策N2文法総まとめ」第1週～第3週			教科書の該当範囲を読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	72~92	「日本語能力試験対策N2文法総まとめ」第4週～第6週			教科書の該当範囲を読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	93~113	「日本語能力試験対策N2文法総まとめ」第7週～第9週			教科書の該当範囲を読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	114~141	検定試験対策(模擬試験を含む)			教科書の該当範囲を読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
141~150	日本事情(行事含む)						
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
確認テスト	◎	◎		○		50%	
履修上の注意							

科目名	会話Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	河崎・河原田・檜崎		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	留学生が実際に会おう可能性の高い場面や状況を使い、会話の練習を行う。ロールプレイを行うことで、自分に何が足りなかったのか、どんな言語知識が必要だったのか学生自身が気づき、場面に応じた課題達成言語能力を伸ばすことを目的とする。						
授業形態	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		学校・職場・地域などの生活場面において、日本語での自然な会話ができる	
	○	○		○		場面に応じた言語表現を正しく使用することができる	
	○	○		○		対人関係や物事の処理をスムーズに運ぶために役立つ日本事情が理解できる	
	○	○		○		正しい日本語のアクセント・イントネーションで発音することができる	
テキスト・教材 参考図書	・中居順子・近藤扶美・鈴木真理子・小野恵久子・荒巻朋子・森井哲也 著 『会話に挑戦！日本語ロールプレイ』 スリーエーネットワーク 2005年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	クラスで自己紹介をする				習った会話を復習する。(0.5時間) また、実際の場面で積極的に使ってみる。	
	2	先生を飲み会に誘う				習った会話を復習する。(0.5時間) また、実際の場面で積極的に使ってみる。	
	3	先生の誘いを断る				習った会話を復習する。(0.5時間) また、実際の場面で積極的に使ってみる。	
	4	友達を慰める・励ます				習った会話を復習する。(0.5時間) また、実際の場面で積極的に使ってみる。	
	5	パーティーで初対面の人と話す				習った会話を復習する。(0.5時間) また、実際の場面で積極的に使ってみる。	
	6	電話をかけて伝言を頼む				習った会話を復習する。(0.5時間) また、実際の場面で積極的に使ってみる。	
	7	医者に症状を説明する				習った会話を復習する。(0.5時間) また、実際の場面で積極的に使ってみる。	
	8	財布をなくして説明する				習った会話を復習する。(0.5時間) また、実際の場面で積極的に使ってみる。	
	9	希望の部屋を探す				習った会話を復習する。(0.5時間) また、実際の場面で積極的に使ってみる。	
	10	確認テスト					
評価方法	(1)会話作成・発表(積極性・内容) (2)確認テスト(口頭) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	会話作成・発表	◎	◎		○		50%
	確認テスト	◎	◎		○		50%
履修上の注意							

科目名	聴解Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	河崎・河原田・檜崎		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	「新完全マスターN2聴解」を使用し、各問題の特徴と正答を導くためのポイントを学ぶ。スキルを学び、試験形式の問題を解くことでN2に合格できるための聴解力を養成する。						
授業形態	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		具体的な課題解決に必要な情報を聞き取り、次に何をするのが適当か選択できる。	
	○	○		○		事前に示されている聞くべきことをふまえ、ポイントを絞って聞くことができる。	
	○	○		○		テキスト全体から話者の意図や主張などが予測できる。	
	○	○		○		質問などの短い発話を聞いて、適切な応答ができる。	
	○	○		○		長めのテキストを聞いて、複数の情報を比較・統合しながら、内容が予測できる。	
テキスト・教材 参考図書	・中村かおり 福島佐知 友松悦子 著 『新完全マスターN2聴解』 スリーエーネットワーク 2011年						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	「即時応答」のスキルを学ぶ 最初の文を理解する				事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)	
	2	「即時応答」のスキルを学ぶ 返事の文を考える				事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)	
	3	「課題理解」のスキルを学ぶ すべきことを理解する				事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)	
	4	「課題理解」のスキルを学ぶ 条件に合う情報を聞き取る				事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)	
	5	「ポイント理解」のスキルを学ぶ 話し手の意図を考える				事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)	
	6	「ポイント理解」のスキルを学ぶ 言い換え/必要な情報を拾う				事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)	
	7	「概要理解」のスキルを学ぶ 例と例をまとめる言葉/キーワード				事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)	
	8	「概要理解」のスキルを学ぶ 話の主題をまとめる/意見・主張/意図				事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)	
	9	「統合理解」のスキルを学ぶ				事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)	
10	模擬問題				事前に指定した箇所を予習してください。(1時間) 学習した箇所を復習してください。(0.5時間)		
評価方法	(1)授業の中で確認テストを実施する。(2)定期試験(リスニング)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
確認テスト	◎	◎		○		50%	
履修上の注意	各自、音声教材をダウンロードするなど、予習復習ができる環境を作ってください。						

科目名	作文Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	河崎・河原田・檜崎		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	学習した言葉や文型を使って、自分の意見などをより論理的に書けるようになることを目標とする。自分が表現したいことが読み手に伝わるような書き方について考え、よりよい表現を探る。						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		あるテーマについて比較しながら、自分の意見を書くことができる。	
	○	○		○		理由を述べながら、自分の意見を書くことができる。	
	○	○		○		ある出来事や人物について描写し、伝える文を書くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	門脇薫・西馬薫 著 『みんなの日本語 やさしい作文』 スリーエーネットワーク 2018年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	ごみ:国との比較(1) 下書き			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	2	ごみ:国との比較(1) 清書			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	3	交通:国との比較(2) 下書き			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	4	交通:国との比較(2) 清書			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	5	スマートフォン必要? 不必要? 下書き			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	6	スマートフォン必要? 不必要? 清書			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	7	わたしの周りの最近のニュース 下書き			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	8	わたしの周りの最近のニュース 清書			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
	9	わたしの国の有名な人 下書き			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)		
10	わたしの国の有名な人 清書			授業終了時に示す課題について作文を書くこと(1時間)			
評価方法	(1)宿題を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	宿題	◎	◎		○		50%
履修上の注意							

科目名	読解Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	河崎・河原田・檜崎		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	日本語能力試験N2に出題される形式の問題を使用して、N2に合格できる読解力を養成する。試験形式に慣れるとともに、重要な言葉・表現などに注目しながら、文章の内容を理解し要点をつかむ方法を身につけることを目指す。						
授業形態	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		生活・仕事などいろいろな話題で、説明文や指示文などを読んで、内容が理解できる。	
	○	○		○		比較的易しい内容の評論、解説、エッセイなどを読んで、因果関係や理由、概要や筆者の考え方などが理解できる。	
	○	○		○		比較的易しい内容の複数のテキストを読み比べて、比較・統合しながら理解できる。	
	○	○		○		論理展開が比較的分かりやすい評論などを読んで、主張や意見がつかめる。	
	○	○		○		広告・パンフレット・ビジネス文書などの情報素材の中から必要な情報を探し出すことができる。	
テキスト・教材 参考図書	・小林ひとみ、桑原里奈、木林理恵 著 『スピードマスターN2 読解』 Jリサーチ出版 2011年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	読解力アップのポイントと練習			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
	2	内容理解(短文) 問題1～問題6			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
	3	内容理解(短文) 問題7～問題12			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
	4	内容理解(中文) 問題1～問題5			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
	5	内容理解(中文) 問題6～問題10			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
	6	統合理解			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
	7	主張理解(長文)			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
	8	情報検索			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
	9	第1回模擬試験(P89～107)			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)		
10	第2回模擬試験(P109～127)			事前に指定された箇所を読み、問題を解いておくこと。(1時間)			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で確認テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価をする。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	確認テスト	◎	◎		○		50%
履修上の注意							

科目名	文字語彙Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	20時間	担当者	河崎・河原田・檜崎		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	日本語科(1年6か月)1年						
授業概要	日本語能力試験N2の問題を数多く解くことで、試験の傾向や特徴をつかみ、N2に合格できる語彙力を養成する。						
授業形態	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		漢字の読み方・書き方がわかる。	
	○	○		○		派生語や複合語を覚えて、使うことができる。	
	○	○		○		文に合った適切な言葉を選ぶことができる。	
	○	○		○		ある言葉や表現と意味的に近い言葉や表現を覚え、使うことができる。	
	○	○		○		ある語が文の中でどのように使われるか理解し、使うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	松浦真理子 鈴木健司 監修 『日本語パワードリルN2文字・語彙』 アスク出版 2010年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	「日本語パワードリルN2文字語彙」1～3回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	2	「日本語パワードリルN2文字語彙」4～6回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	3	「日本語パワードリルN2文字語彙」7～9回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	4	「日本語パワードリルN2文字語彙」10～12回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	5	「日本語パワードリルN2文字語彙」13～15回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	6	「日本語パワードリルN2文字語彙」16～18回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	7	「日本語パワードリルN2文字語彙」19～21回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	8	「日本語パワードリルN2文字語彙」22～24回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
	9	「日本語パワードリルN2文字語彙」25～27回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)		
10	「日本語パワードリルN2文字語彙」28～30回			教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。(1時間)			
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
小テスト	◎	◎		○		50%	
履修上の注意							